

### Ⅲ. グループワーク

## 1. 実施概要

### 1 実施校、実施日等

#### (1) 青森県立青森西高等学校

<対 象> 1学年生徒 240名

<実施日> 令和元年9月19日(木) 13時25分～15時15分

#### (2) 五所川原第一高等学校

<対 象> 2学年生徒 65名

<実施日> 令和元年11月6日(水) 13時20分～15時10分

#### (3) 八戸工業大学第二高等学校

<対 象> 1学年生徒 200名

<実施日> 令和元年11月20日(水) 13時50分～15時30分

### 2 内容(120分の場合)

項 目	時間	内 容
概要説明	10分	・県選挙管理委員会事務局から、模擬議会の概要について説明
グループワーク・発表資料作成	80分	グループワーク 進行：総務省主権者教育アドバイザー 藤井剛氏 ・グループに分かれ、青森県の活性化策(サブテーマ：人口、製造業、農林水産業、輸出入、観光、健康)について検討(50分) ・発表資料作成(30分)
発表・振り返り	30分	・グループ毎にまとめた内容を発表(テーマ単位)(20分) ・振り返り(10分)

※ グループワーク実施前に、学校において、グループワークを行う趣旨の説明、青森県の統計データの読み込み等、事前学習を実施。

## 2. グループワークの手順

1. テーマごと、グループごとに会場に集合する。
2. 本日のグループワークは、各グループに与えられたテーマに沿って「青森県の活性化」の提案をプレゼンテーションすることであることを確認する。
3. グループワークの時程の目安は次のとおり。
  - ①各グループに与えられたテーマに関して、「青森県の現状」についてブレインストーミング（BS）を行い（5分）、KJ法で整理を行う（10分）。その後、グループで話し合いを行い（10分）、青森県の現状の中で「最大の課題」を考える。（課題合計25分）
  - ②各グループで考えた「青森県最大の課題」の解決策を考える準備を各自行う（5分）。その後、「課題解決策」についてBSを行い（5分）、KJ法で整理する（10分）。その後グループで話し合いを行い（10分）、課題の解決方法を考える。（解決策合計30分）
  - ③プレゼンテーションの準備を行う（20分）
  - ④プレゼンテーションを行う（20分）
  - ⑤振り返り（5分）

### 4. 具体的なグループワークの手順

- (1) 自分たちのグループの「テーマ」を確認し、事前に調べてきた「資料」を準備する。
- (2) 事前に準備してきた「青森県の現状」＝「どのような問題があるのか」「なぜそれが問題なのか」を、BSで出来るだけ多く挙げる。

#### ☆BSの手順

- ①グループのメンバーが丸くなって座り、真ん中に模造紙をおく。
- ②時計回りに一人ずつ、「青森県の現状」＝「どのような問題があるのか」「なぜそれが問題なのか」を一つあげ、それをフセンに1～2行程度で書き模造紙に貼る。
- ③それを5周以上行うよう努力する。
- ④ブレインストーミングの注意事項
  - A. 他人の意見を批判してはいけない。
  - B. 「こんなことを言ったら笑われはしないか」などと考えず、思いついた考えをどんどん言う。
  - C. 「質より量」なので、できるだけ多くのアイデアを出す。
  - D. 発言の順番がまわってきたら必ず何か言わなければならない。「とくにありません」、「前の方がいったのと同じなのでありません」は不可です。
  - E. 用意してきた「問題」など以外にも、他人の意見を聞いて連想を働かせたり、他人の意見に自分のアイデアを加えて新しい意見として述べてもよい。
  - F. メモ用紙を置き、他の人の発言を聞きながら思いついたことをメモしておくもよい。

- (3) 「青森県の現状」のフセンを「KJ法」で整理する。

#### ☆KJ法の手順

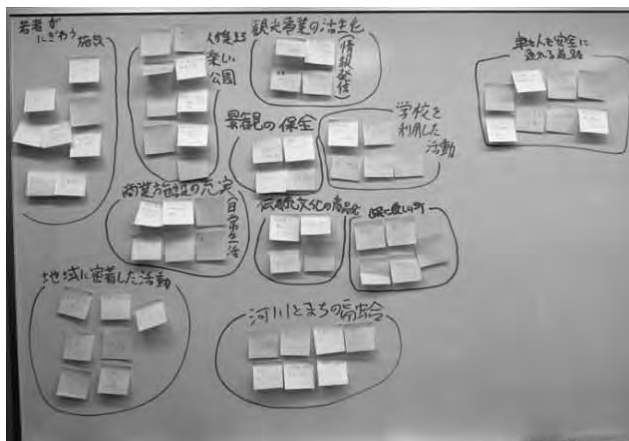
- ①全てのフセンを読めるように広げなおし、全体に目を通す。

②「現状」「問題」「課題」などの内容や意味などが近い感じのものを近くに集める。

③グルーピングが終わったら、そのフセンのまとまりをマジックで丸く囲み、グループの簡単な「題名」をつける。

④「題名」やフセンの内容を確認しながら、どのグループが、青森県にとって「一番解決すべき問題・課題」なのか、資料による根拠をはっきりさせながら話し合いで決める。

## 完成例



(4) 青森県の「一番解決すべき問題・課題」が

決まったら、その問題や課題を「どのように解決するか」を各自考えて、具体的に解決策をBSやKJ法で話し合うための準備を行う。

### ☆解決策を考える際の注意事項

①具体的な解決策を考えること。例えば、「どのくらいお金がかかるか」「そのお金はどこから出すか」「誰が解決(実行)するのか」「解決方法は現実的で具体的か」などを考慮すること。

②実現可能性も考えること。例えば、「だいたい100億円くらいかかりそうだが、県の公務員の給料を1割カットしてそれに充てよう」とか、「かなりの人手が必要だが、県内の高校生全員でボランティアしよう」は難しい。

③解決策の実行で、他の課題が出ないか考えること。例えば、「地域住民の生活の利便性を考えて『コンパクトシティ』化を進めるので、街から遠くに住んでいるお年寄りたちも、駅の近くの集合住宅に必ず住んでもらう」という案は、お年寄りたちの「不便でも、現在のところに住み続けたい」という要望を無視する可能性が高い。

(5) 各自考えた「青森県の課題解決方法」を、BSで出来るだけ多く挙げる。

☆BSの手順や注意事項は(2)参照

(6) 「青森県の課題解決方法」のフセンを「KJ法」で整理する。「題名」やフセンの内容を確認しながら、どのグループが、「青森県の課題解決方法」として一番なのか、資料による根拠をはっきりさせながら話し合いで決める。

☆KJ法の手順は(3)参照

(7) 解決策が決まったら、それをプレゼンテーションする準備を行う。

①使用するのは、模造紙1枚である。準備時間が少ないので、「解決すべき問題・課題」「具体的な解決方法」を中心に、図式化などを試みながらわかりやすく資料化する。

②グループ内で手分けして準備するとよい。例えば5人のグループならば、模造紙に解決策を書く生徒が3人、プレゼンテーションの原稿を作る生徒が2人などにする。

③時間が余ったら、プレゼンの予行を行う。

(8) テーマごとに集まり、各グループがプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションの時間は、「入れ替わり」「模造紙の準備」などを入れて、各グループ4～5分である(グループワークの途中で指示する)。

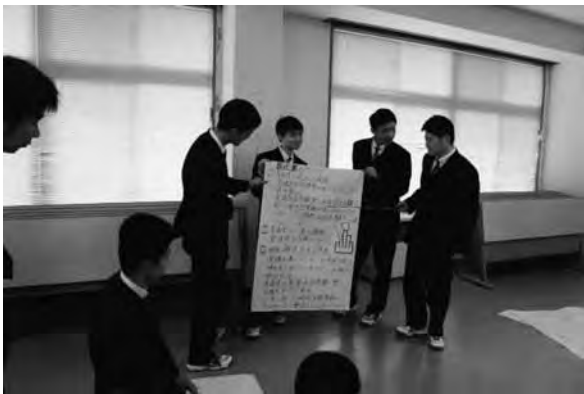
(9) プレゼン終了後、アンケートに記入して「振り返り」を行う。

### 3. グループワークの様子

○青森県立青森西高等学校（9月19日）



○五所川原第一高等学校（11月6日）



○八戸工業大学第二高等学校（11月20日）



#### 4. アンケート結果

グループワーク実施前と実施後に、グループワーク参加生徒を対象に、下記項目についてアンケートを実施した。

※【事前】グループワーク実施前アンケート、【事後】グループワーク終了後アンケート

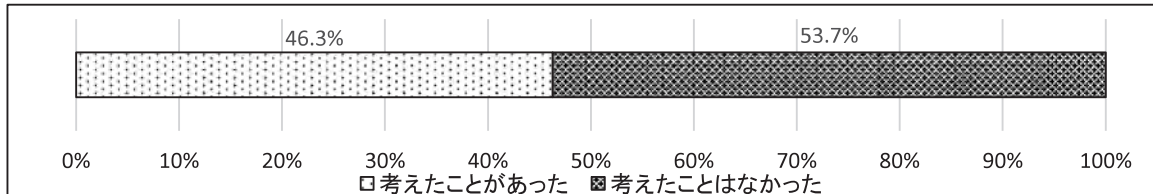
※調査対象者：473名

(県立青森西高校：229名、八戸工業大学第二高校：182名、五所川原第一高校：62名)

- 1 【事前】これまで青森県のこと(例えば、青森県の現状、青森県の活性化、未来など)を考えたことがありましたか。

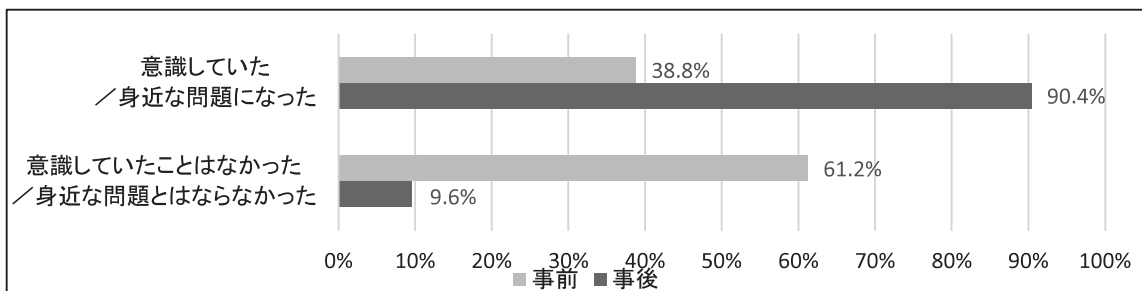
(注)「事前」のみの設問

事前アンケートで、これまで青森県のことを考えたことがあったと回答した生徒は、46.3%、考えたことはなかったと回答した生徒は、53.7%だった。



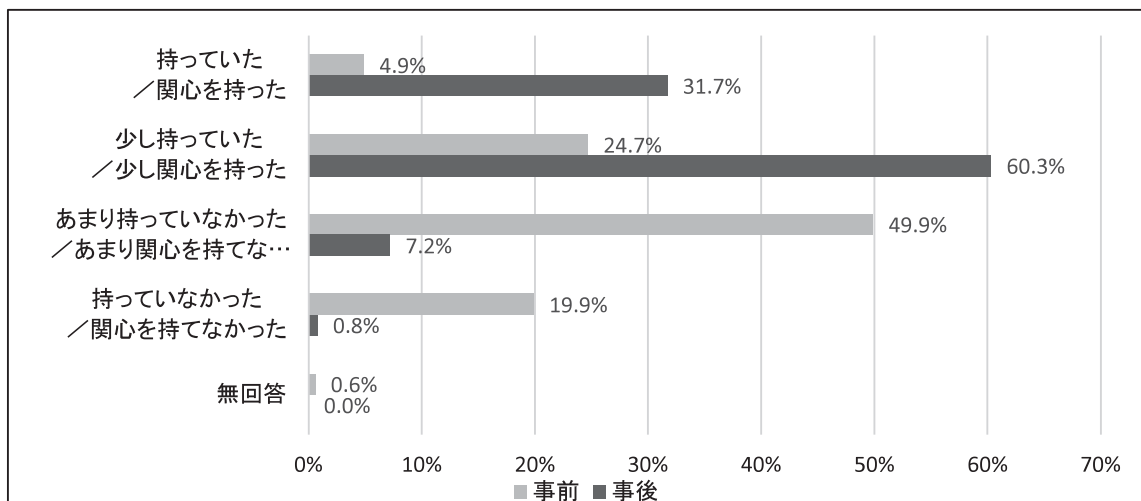
- 2 【事前】「青森県の活性化」を身近な問題として意識していましたか。  
【事後】「高校生模擬議会」グループワークを通して、「青森県の活性化」は身近な問題になりましたか。  
(注)「事前」は、1で青森県のことを考えたことがあったと答えた場合のみ、回答

事前アンケートでは、「青森県の活性化」を身近な問題として意識していたと回答した生徒は、38.8%だったが、グループワーク終了後の事後アンケートでは、身近な問題になったと回答した生徒は90.4%となった。



- 3 【事前】これまで「政治や選挙」に対して関心を持っていましたか。  
【事後】「高校生模擬議会」グループワークを通して、「政治や選挙」に対して関心を持ちましたか。

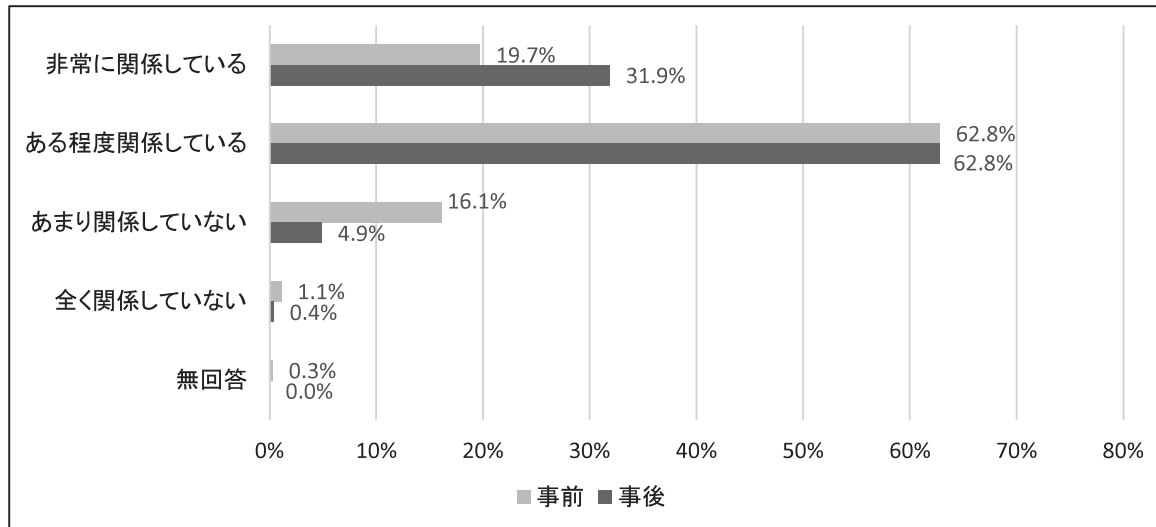
事前アンケートでは、「政治や選挙」に対して関心を持っていたと回答した生徒は、4.9%だったが、グループワーク終了後の事後アンケートでは、関心を持ったと回答した生徒は、31.7%となった。





- 4 【事前】あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係していると考えていますか。  
 【事後】あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係していると考えていますか。

事前アンケートでは、自分自身の生活と政治が非常に関係していると回答した生徒は、19.7%だったが、グループワーク終了後の事後アンケートでは、非常に関係していると回答した生徒は、31.9%となった。



- 5 【事前】18歳になったら投票に行こうと考えていましたか。  
 【事後】グループワークを通して、18歳になったら投票に行こうと考えましたか。

事前アンケートでは、18歳になった必ず投票に行こうと考えていたと回答した生徒は、19.9%だったが、グループワーク終了後の事後アンケートでは、必ず行こうと考えたと回答した生徒は、34.5%となった。

